**第１回大阪府観光客受入環境整備の推進に関する調査検討会議　議事録**

平成２７年５月８日　金曜　１５：００～１７：００

於：プリムローズ大阪　３階「高砂の間」

**司　会**

お待たせいたしました。それでは、お時間になりましたので、ただいまから「第１回大阪府観光客受入環境整備の推進に関する調査検討会議」を開催させていただきます。

私は、本日の司会を務めさせていただきます大阪府府民文化部都市魅力創造局企画・観光課の大河内でございます。よろしくお願い申し上げます。

なお、大阪府では、本年も5月1日から10月31日までの間、関西夏のエコスタイルを実施いた

しておりまして、本日、事務局の出席者も軽装で出席させていただいております。

なにとぞ、ご理解賜りますよう、よろしくお願いいたします。

はじめに、本日の会議でございますが、恐れ入りますが、お手元の委員名簿をご覧いただきたいと思います。

本検討会議は、名簿に記載の７名の委員の先生方により構成させていただいており、本日は、このあと改めてご紹介を申し上げますが、佐藤委員、武内委員、田中委員、福島委員の4名にご出席をいただいておりますので、「大阪府観光客受入環境整備の推進に関する調査検討会議規則」第４条第２項の規定に基づきまして、本会議は成立しておりますことを、まずご報告申し上げます。

次に、本日の会議資料の確認をさせていただきたいと思います。机の上正面に、ただいまご覧い

ただきました委員名簿、それとあと、会議規則、本日の会議の次第を置かせていただいております。その右横上から、資料といたしまして、資料１でＡ４の縦で１枚、資料２といたしましてＡ４横のものが１枚、資料３といたしまして、Ａ４横のホッチキス止めが１部、資料４といたしましてＡ４横にはなっておりますが、中にＡ３の折込みが入っておりますのが１部、資料５といたしまして、Ａ３の横のホッチキス止め1部、それぞれをお手元にお配りをさせていただいております。あと、封筒の上には、参考といたしまして、少しお荷物となりますが、大阪観光局公式ガイドブックをはじめ、大阪府が作成しております幾種類かのパンフレット、リーフレット、新聞の切抜き記事などをご用意いたしましたので、のちほどご覧いただければと存じます。

配布資料は以上のとおりでございますが、不足などはございませんでしょうか。

それでは、開会にあたりまして、大阪府府民文化部 岡本 都市魅力創造局長からご挨拶を申し上げ

ます。

**事務局：岡本局長**

　都市魅力創造局の岡本でございます。委員の皆様方におかれましては、大変ご多忙中にも関わりませず、本検討会議の委員にご就任いただきまして感謝申し上げます。ご承知のとおり、２０１４年訪日の外国人の数が１３４１万人ということで過去最高です。大阪府も目標であった３２０万人を上回りまして、暫定値ですが３７６万人という多くの外国人の旅行者の方等が訪れております。その前の年は２６５万人でしたから、約１００万人以上増えております。２年前まで遡りますとおよそ倍になっております。また、国内に目を向けましても、大手旅行代理店が発表されました今年のゴールデンウィークの国内宿泊旅行のインターネット予約は、大阪が前年度から最大の伸び率というような状況でございます。私、先だって、ビジネスホテルよりカテゴリーが上でシティホテルまではいかないホテルの総支配人にお会いしましたけれど、やはり、稼働率が９７％であると。但し、そこは団体をとっていないと。だから外国人のお客様は、インターネットで入ってくるお客様、それ以外は、一般に元々そこを使われているお客様、そういうところでも９７％で、逆に顧客から予約がとれないと言う事で嫌がられていると。非常に苦労されていると。やはり、この２年で大阪府１８０万人とか倍になりまして、とても受け入れ環境が追いつくはずもありませんで、本当に今、色んな対策が叫ばれているところです。この先を見ましても、私どもでやっております大阪マラソンも、昨年、３０００人以上の外国の方が走っております。家族も含めますと、その時期に１万人以上の方々が一挙に押し寄せるという状況です。今年は、この明後日で募集を締め切りますけれども、昨年以上、外国人の方から申し込みがありますので、３万数千人の方々が走られますけれども、１割超が外国の方になっているという状況でございます。それから２０２０年のオリンピック、さらには、２０１９年のラグビーのワールドカップ、会場は全国に十幾つございますけれども、花園というのは、中央の組織委員会にラグビーの聖地だということを認識していただいており、特別なカードを幾つも組んでくれると。

ラグビーのワールドカップは、予選だけで６週間、本選を入れますと８週間という長丁場です。１

週間に１回しか試合をしませんので、そのあいだ選手も、それからヨーロッパではナンバー１のスポーツで、多くの方が滞在され、過ごされます。そういう状況、この先も色々見えております。さらには、話題になっておりますＩＲも　法案が再び国会に提出されて、大阪府としては、ＩＲの機運を高めていこうという考え方を非常に強く持っております。

こういった中で、大阪に来た観光客の方が、やはり快適に過ごしていただくような受け入れ環境の

整備、充実が非常に重要でございます。また、逆に今度は大阪に住んでいる人が、そこに住みにくくなったということになりますと、逆に大阪の魅力が壊滅します。大阪の人の住みやすくかつ、この観光客をどのように受け入れていくのか、これは非常に喫緊の課題でございまして、色んな主張をされる行政需要に対しまして、我々広域自治体としてどのように対応していくべきなのか、あるいは、需要がたくさんあるとすれば、それをどういう財源で賄っていくのかということを含めまして、検討していただこうということで、本会議を設置し、期待しているところでございます。やはり、人口減少社会の中で、生き残るために国際都市として、生き残ることが必要でございますが、そのために大阪の人とのバランスをどうするのか、今、棲み分けが非常に上手に出来てなくて色んなマナーの問題もありますし、文化の違いもございます。あるいは大阪といえば「食」ということで多くの人達に期待されておりますけれども、今はやはり自然を見たいとか、ありのままの日本を見たいとか郊外に行かれる方もいらっしゃいますが、そこにはそんなに受入環境の整備というものがされている訳ではございませんので、色んな軋轢が起こります。すべてこういうお互いの文化や生活習慣の違い　　なども意識しながらどうやって、この状況に対して、より快適に観光客を受入れて、大阪を活性化させていくかということをこれから委員各位の皆様と議論し、ご意見をいただき、世界に通用する魅力ある大阪を作っていきたいと思いますので、これから幅広いご意見をお願いいたしまして、あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**司　会**

それでは、改めまして、本日ご出席をいただいております委員の皆様方を名簿の記載順に御紹介をさせていただきます。

佐藤　委員でございます。武内　委員でございます。田中　委員でございます。福島　委員でござ

います。

なお、本日は、角倉委員、高橋委員、玉岡委員におかれましては、どうしても日程調整の都合がつかなかったということで、やむなくご欠席ということでございます。

それでは、議事の方に移らせていただきたいと存じます。

まず、会長の選任についてでございますが、お手元の先ほどご覧いただきました会議規則をご覧願います。

規則第４条では、会議の議事を行う議長は、会長が務めることになっておりますが、本日は検討会議設置後初めての会議でございまして、現時点で会長が選任されておりませんので、会長選任の議事につきましては、僭越ながら、事務局の方で進行を務めさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。

それでは、会長選任の議事についてでございますが、規則第３条第1項の規定では、「検討会議に会長を置き、委員の互選によってこれを定める。」とされておりますので、どなたかご推薦がございましたら、よろしくお願いいたします。

**佐藤委員**

僭越でございますけれども、今回のこの検討会議の会長には、公益財団法人大阪観光局の会長であり、また、新関西国際空港株式会社の代表取締役会長であります、福島伸一様にやっていただいたら、一番適任ではないかと思いますがいかがでしょうか。

**司　会**

ただいま、佐藤委員の方から福島委員を会長にということで、ご推薦がございましたが、皆様、よろしいでしょうか。ご異議ございませんでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。それでは皆様、ご異議がないということでございますので、福島委員に本

検討会議の会長をお願いいたしたいと存じます。

それでは、福島会長の方から、一言、ご挨拶を頂戴いたしたいと存じます。

**福島会長**

　ただいま会長にご推薦いただきました福島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議のまとめ役ということですので、一言、ご挨拶をさせていただきます。

今、岡本局長からお話がありましたように観光、特にインバウンド、これは本当に大きなフォロー

の風が吹いておりまして、多くの訪日外国人のお客様が、ここ大阪、関西においてたくさんお越しいただいています。皆様ご存知だと思いますが、円安、ビザの規制緩和、ＬＣＣの就航増、等々に加えまして、地元大阪では、ＵＳＪのハリーポッター、阿倍野ハルカス、そういったところのオープンといったことが背中を押して、加速をしているのではないかと思います。また、少し先では２０１９年にラグビーのワールドカップ、それから２０２０年には東京オリンピック、２０２１年には、アジアで初めての関西ワールドマスターズゲームズが開催される予定となっております。ＩＲの方も、２０２０年には、この大阪夢洲で開業が出来れば良いなと期待をいたしておりまして、本当にこれから多くのお客様が、大阪に来られることが期待されております。また、日本政府も、観光インバウンドにつきましては、国の成長戦略の一つとして様々なことに取り組んでおられますので、このような流れの中で、ぜひ観光で大阪を元気にしまして、観光を大阪、関西の成長産業に育てて生きたいというのが、いつも私が思っていることでございます。そのためにも、国内外から多くのお客様に大阪にお出でいただきますが、来られたお客様が本当に快適で楽しく安全に過ごしていただく、そして大阪の魅力を満喫していただいて帰られる、そうしてまたリピートしていただく、そのためには、このお客様を受け入れる環境整備の充実がまさに重要でありますし、急務ではないかなと思っております。ぜひ、委員の皆様方におかれましては、それぞれの専門的見地から忌憚のないご意見をいただき、実りある会議にしていければと思っておりますので、なにとぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

**司　会**

福島会長、ありがとうございました。

それでは、このあとの議事につきましては、福島会長に議長として進行をお願いいたしたいと存じます。それでは、福島会長、よろしくお願い申し上げます。

**福島会長**

それでは、ここからは私が進行をさせていただきます。

議事の2つ目、会議の公開についてでありますが、大阪府の「会議の公開に関する指針」では、「審

議会の会議は原則として公開するものとする。」となっておりますので、本検討会議につきましては、原則、公開とすることとしてよろしいでしょうか。

（異議なし）

ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきたいと思います。

次に、議事の３つ目、会議のスケジュールにつきまして、資料１並びに資料２に基づきまして、事務局から説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

**事務局：西野副理事**

府民文化部副理事の西野でございます。恐れいりますが、座って説明をさせていただきます。

資料１をご覧下さい。この検討会議で検討をしていただく内容でございますが、中ほどに記載をし

ておりますとおり、まず一つ目に、観光客の受入環境整備にかかる課題分析をまず行っていただきます。５点ほど挙げておりますが、まず、観光客がスムーズに入出国及び周遊できるための交通アクセス等の改善、それから、観光客が快適に過ごしていただくための環境整備、文化・生活習慣の違いに対する観光客と我々受入側との相互理解の促進、観光集客による大阪府域全体の活性化、国内外から継続して観光客を呼び込むための都市魅力の充実につきまして、課題分析をしていただきました上で、これらの課題に対応するための必要な施策と事業規模についてご検討いただきます。そして、財源確保の負担のあり方についてご検討をしていただくという風にいたしております。

続きまして、資料２でございますが、本検討会議のスケジュール及び検討事項について、本日、立ち上げをいたしまして、まず、観光客の受入環境整備にかかる現状と課題につきまして、ご議論をいただき、次に、２回目、３回目といたしまして、観光客の受入環境整備にかかる施策の方向性として、国、市町村、民間との役割分担を踏まえて大阪府として実施すべき施策の範囲、それから、短期、中期、長期の視点からの大阪府として実施すべき施策の進め方についてご議論をいただきまして、４回目、５回目で、観光客の受入環境整備にかかる施策のあり方として、具体的な事業概要、それから、大阪府のこれまでの取組みや他府県、あるいは海外の取組事例等を踏まえた事業の実施に必要な財源確保のあり方等についてご議論をいただきたいと考えております。

必要に応じまして、業界関係者等から意見聴取を検討いたしたいと考えております。こうした議論を踏まえまして、８月中旬頃を目途に中間とりまとめをいただきまして、その後、府議会での議論や府民の皆様から意見をいただきますパブリックコメント等の手続きを経まして、年内に報告書の最終とりまとめをしていただければという風に考えております。なお、日程的に非常にタイトでございまして、委員の先生方も、非常にご多忙でございますので、日程的に会議が開きにくいという状況がございましたら、その場合には、個別にご説明に回りまして、その意見を皆様に伝達して、進めていきたいという風に考えております。以上でございます。

**福島会長**

どうもありがとうございました。説明は以上のとおりですが、とりあえず現時点では、今後のスケジュール等につきましては、今、事務局からの説明のとおり進めることを基本といたしまして、今後の会議の進捗状況等によりまして、必要に応じてご相談させていただくということでよろしいでしょうか。

それでは、そのようにさせていただきます。

　次に、議事の４つ目、観光客の受入環境整備に係る現状と課題につきまして、資料３から資料５で

ございますが、これに基づきまして、事務局から説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

**事務局：西野副理事**

　それでは、資料３から資料５をまとめて説明させていただきます。

　時間の関係上、ポイントのみの説明になりますけれども、ご了承いただきたいと存じます。

それでは、資料３をお開き下さい。まず、国内外からの旅行者の状況をまとめた資料でございます。２ページ目、訪日外国人旅行者数の推移でございますが、ビジットジャパン事業開始の２００３年

からの推移を表しております。東南アジアの通関ビザの関係や、円安が進みました２０１３年に初めて、訪日外国人旅行者が１０００万人を突破いたしまして、昨年、２０１４年につきましては、前年度比約３０％の伸びで１３４１万人となりました。２０１５年も１月から３月までの期間で４１３万人が来られておりますので、このペースで行きますと、今年は１６００万人ぐらいはという状況でございまして、近年、右肩あがりの状況でございます。この棒グラフの各年の短い方のグラフは、来阪外国人旅行客数を表したものでございます。２０１４年には、３７６万人ということでございまして、前年度比４３％の増というような状況になってございます。

１ページめくっていただきまして、２ページは、２００３年と２０１４年を比較いたしまして、訪日外国人の方々の国別構成がどのようになっているのかというものでございます。

比較いたしますと、各国、各地域とも増加をいたしておりますが、特にアジア諸国からの観光客が大幅に増加している状況でございます。２００３年には、円の真ん中あたりでございますが、アジアの比率が６６．１％でございましたが、２０１４年には７９．１％までアジアの観光客が伸びているという状況でございます。

３ページでございますが、関西国際空港におけます外国人入国者数等の状況を説明してございます。まず、外国人入国者数でございますが、２０１４年は、前年度比３６．６％増の３１７万人という

ことになってございます。その横にまいりまして、関空における国際線のＬＣＣ便数の推移でございますけれども、２０１４年の冬対比でございますが、前年比１２．３％増ということで旅客便に占めるＬＣＣ便数の割合につきましては、２２．４％にまで高くなっているという状況でございます。

左下でございますけれど、外国人入国者の空港別利用割合を見ましても、関西国際空港につきましては２３％を占めておりまして、年々増加をしておるといった状況でございます。

４ページでございますが、主要都道府県、これは外国人の訪問率が高い上位１０都道府県を表しておりますけれども、過去３年間の外国人旅行者の訪問率の推移をグラフで表したものでございます。

これを見てみますと大阪府、京都府がかなり伸びているといった状況でございまして、大阪府につきましては、昨年は、２７．９％の訪問率があったということでございます。

５ページに参りまして、主要都道府県別の外国人延べ宿泊者数の推移でございます。

大阪府でございますけれども、２０１３年が前年度比４１％増、昨年が３５．３％増、ということで全国平均より高い伸びを示しておるところでございます。

６ページに参りまして、外国人延べ宿泊者数の構成比、２０１４年の上位５国籍を表したものでございます。大阪は上から２つ目でございますけれども、アジアの観光客で上位５つを占めるという状況でございます。

７ページに参りまして、主要都道府県別の日本人延べ宿泊者数の推移の状況でございます。

大阪府につきましては、２０１４年が前年比伸び率１０７％ということで、約２１００万人といった状況でございます。外国人に比べると、伸びは若干少ないかなという状況でございます。

８ページに参りまして、客室稼働率の推移でございます。大阪府につきましては、２０１４年が前年比５％以上の伸びを示しておりまして、東京都と同様、平均稼働率が８割を超えているという状況になってございます。

下に参りまして、大阪府の宿泊施設のタイプ別の客室稼働率の推移でございますが、ホテル関係につきましては、８割を超えておりますが、旅館につきましては４割程度となっております。

９ページに参りまして、旅行消費額についてでございますが、左の上が国内におけます全体の旅行消費額の推移を示したものでございます。２０１３年におきましては、国内全体で２２．５兆円となっております。このうち訪日外国人の旅行につきましては、１．４兆円ということでございますので、国内での消費額の殆どが日本人による消費であるという状況でございます。

右に参りまして、訪日外国人旅行の消費額の推移でございます。これにつきましては、近年、年々、３割以上の伸びを示しておりまして、２０１４年は２兆円を超えているという状況でございます。外国人一人当たりの旅行支出にいたしましても、平均で約１５万円、中国につきましては２３万円といった状況になってございます。

次に１０ページでございますが、外国人旅行者が大阪でどのようなところを訪問しているのかといったものを表したものでございます。道頓堀、大阪城には２人に１人は訪れていまして、その他、ユニーバーサルスタジオジャパン、このようなところにたくさん行かれているということでございます。

１１ページが、府内の地域別の観光客数でございます。この数値につきましては、２３年以降、府の方で観光統計調査を実施しておりませんので、２２年の数字で恐縮でございますけれども、地域ごとの府外からの観光客数、それから、府民観光客数というのは、府民の皆さんがこの地域に観光で回られたという数字でございます。トータルいたしますと、約１億５千６百万人ということでございまして、そのうちの約７割が大阪市域ということでございます。宿泊者につきましては、約９割が大阪市域になっているという状況でございます。

その右に参りまして、２０１２年、平成２４年に大阪府が調査したものでございますけれども、府外からの訪問客、府内からの訪問客の皆さんからアンケート調査をいたしまして、大阪への観光に期待するものということをお聞きをした結果でございます。

続きまして、資料４に参りまして、大阪府におけます都市魅力創造・観光振興の取組みでございます。１枚めくっていただきまして、大阪都市魅力創造戦略の策定ということでございますけれど、これにつきましては、大阪府、大阪市共通の戦略といたしまして、平成２４年１２月に策定をいたしました。世界中からヒト、モノ、投資を呼び込むことを目指しまして府域全体の都市魅力の向上に努めていくというものでございます。

２ページでございますけれども、それに併せて大阪の観光戦略というものも、大阪府、大阪市で策定をいたしました。その数値目標のところを見ていただきますと、来阪外国人旅行者数を、２０２０年には６５０万人を目指すという目標を掲げまして、大阪観光局が司令塔となり、観光の振興に取り組んでいるところでございます。

次のページは、Ａ３になりますが、具体的な大阪における都市魅力創造の取組みということでございます。真ん中当たりを見ていただきますと、特に大阪では、水都大阪を象徴するものであります水の回廊を中心とした魅力賑わいづくり、それから官民が連携いたしまして、様々なイルミネーション事業を一体に取り組み発信をしていくと、大阪光の饗宴、それから大阪マラソン、ラグビーワールドカップの招致事業、それから、真ん中下にございますが、大阪ミュージアム基金という府民の皆様方からの寄付を活用いたしました府域全体のまちの魅力づくりの発信事業など、様々な取組を進めているところでございます。

５ページが大阪観光局によります大阪の観光振興の取組みでございます。平成２６年度の取組み実績を示したものでございます。２６年度の予算額といたしましては、約５億５千万円ということでございます。うち大阪府、大阪市から負担金を５億交付いたしております。具体的には、トラベルミッションの推進、海外のセールス活動の推進でありますとか、ＭＩＣＥ誘致の推進、それから、真ん中あたりに記載をしております外国人受入環境の整備ということで、観光案内所を梅田と難波の２箇所で展開をしております。Osaka Free Wi-Fiにつきましても、現在府内で約２７００箇所まで拡大をして、整備をしているところでございます。それから、ムスリム対応の推進、あるいは、ＳＮＳ等による情報発信を６言語で実施しているところでございます。

時間の関係で次に参りますけれども、資料５でございますが、これにつきましては、大阪における観光客受入環境の現状と課題をまとめたものでございます。先ほど資料１で説明いたしました５つの項目ごとに受入環境に対する観光客等の意見とそれから現状の主な取組みを記載しているものでございます。この旅行者の意見のところに黒の四角やら印がございますが、これにつきましては、資料の右上の方に点線囲みで記載しておりますけれども、黒丸がＪＮＴＯ、日本政府観光局の海外事務所等からの指摘事項、黒四角が、大阪観光局による関空での外国人調査、白ダイヤが、大阪府の観光動向調査として国内の観光客に聞いたものでございます。黒ダイヤがその他、新聞報道等でございます。

主に大阪に関するところをピックアップして説明してまいりますと、まず、一つ目の交通アクセスの等の改善につきましては、ビザの発給要件の緩和、搭乗・入国手続きの時間短縮につきましては、国あるいは関空において取組みが進められているところでございます。４番目の目的地までの交通機関の経路情報の入手、これにつきましては、下に点線で囲んでおりますけれども、平成２３年に観光庁が調査をいたしました外国人が旅行中に困ったこと第３位ということでございまして、特にこの辺につきましては、多くの意見をいただいております。駅構内の英語の表記をもっと増やして欲しいですとか、電車の乗り換えが大変で、駅構内の表示が分かりにくいとかでございます。一番下にまいりまして、語学のできるタクシー運転手が増えればより快適になる、などの意見をいただいております。これに対しましては、空港あるいは鉄道の主要駅等で多言語化を進めているところでございます。タクシーにつきましては、今年の夏までに外国人向けドライバーの認定制度の導入を検討されているといったところでございます。それから、マル５の交通機関における利便性の向上につきまして、意見が多いのは、鉄道のパスを１枚でどこにでも行けるようにして欲しいというのがございました。関西につきましては、ＪＲだけが別のパスになっておりまして使い勝手が悪いと言った意見をいただいております。それから１番下につきましては、ＬＣＣの増加に伴いまして深夜に関空に到着しても早朝まで交通機関が運行していないというような声も寄せられているところでございます。右の方にいきまして、これにつきましては、今、関経連を中心に鉄道のパスにつきましては、関西統一交通バスの創設を検討されているところでございます。関空からのリムジンバスにつきましても、深夜、早朝時間帯への運行拡大を進めているところでございます。

次のページでございますけれど、観光客が快適に過ごせるための環境整備でございます。ホームページ等での情報発信、観光ガイドブックの配布など大阪観光局が中心となって取り組みを進めていただいております。観光案内所につきましては、意見としましては、年齢層に応じた見所を案内して欲しい、もっと数を増やして欲しいということでございます。外国人向けの観光案内所の設置でございますが、府内で１６箇所ございまして、全国８位の状況でございます。３ヶ国語の対応ができるカテゴリー３、一番レベルの高いものが５ヵ所ということになってございます。特に最近、旅行業者等によります店舗併設型の観光案内所の増加も見られているところでございます。

４番目の無料Wifiにつきましては、外国人が旅行中に困ったこと第１位になっておりますが、やはり繋がるエリアが不十分であるとか、あるいは利用方法がバラバラで分かりにくいと言う様な声をいただいております。

５番目に両替、クレジットカード・ＡＴＭの利用改善、それから６つ目には、ショッピングにおける利便性の向上、それから７つ目に飲食店における利便性の向上ということで、やはりこの辺につきましては、海外発行のクレジットカードが使える店舗が非常に限定されている状況でありますとか、あるいは、ショッピング、飲食店での多言語対応が不十分であるというご意見が寄せられております。

次に３ページに参りまして、宿泊施設の整備でございます。これにつきましても、言語の問題、あるいは大阪では昨今、宿泊施設の予約が取れないと、価格が上昇しているということでございます。

参考に右の方に、近年大阪におけるホテルの開業予定状況を記載しております。

それから、９番目に観光地等の環境整備ということでございますが、トイレ、ゴミ箱、バリアフリー、案内施設などの問題に加えまして、大阪では特に観光バスの駐車場が不足をしていると、あるいは観光バスの駐車場があっても、観光施設まで遠いといったような指摘がございます。

それから、１０番目にコミュニケーション、接遇対応につきましても、やはりインバウンドに対応できる人材が不足をしておると。大阪は主要駅、商業施設やホテルの人でさえ英語が通じないといったご意見をいただいております。

それから、安全・安心の確保でございますけれども、台風のことを知らずに大変困ったなどの意見がきておりまして、これにつきましては、大阪観光局でやっておりますOsaka Free Wi-Fiによりまして外国人対応の病院等の情報発信に取り組んでいるところでございます。

４ページに参りまして、３番目の文化・生活習慣の違いによります相互理解の促進でございます。

ビザの緩和の関係で東南アジアから観光客が非常に増えております。その関係でムスリム対応を求めるご意見を多数いただいておりまして、現状の取組みでまいりますと、大阪観光局でムスリムフレンドリーマップの作成、ムスリム対応ができるホテルを紹介するガイドブックでありますとか、あとは祈祷室につきましても関空とか主要駅の方で設置が拡大しているということと、飲食店におけるハラル対応につきましても徐々にではありますが進んでいるといった状況でございます。

それから文化、生活習慣の違いについてのＰＲでございますけれども、これにつきましては、受入側から、例えば温泉での入浴マナーを理解して貰うのが困難であるとか、あるいは海外の文化や慣習の日本人に対しての教育の充実が必要ではないかというご意見をいただいております。

これにつきましては、いわゆるマナーあるいは、トイレの使用方法を解説したものをトイレの中に貼るなど、外国人の方にもマナーを分かっていただきながら、楽しんでいただくということが必要ではないかと考えております。

それから、４番目の観光集客による府域全体の活性化でございます。大阪市内を中心に観光客が増加しておりますので、府域全体に観光客を誘導することによりまして、ホテル不足への緩和でありますとか大阪市内には無いような多様な大阪の魅力を知っていただくという意味からも、府域全体の魅力づくりを進めまして、大阪全体の活性化に務めていくことが必要ではないかと考えております。

最後でございますけれど、５ページでございますが、国内外から継続して観光客を呼び込むための都市魅力の充実でございます。観光客からは大阪は見るべきものが少ないでありますとか、やはりもっと自然が少ないので緑を増やすべきだとかというようなご意見をいただいております。

イベントにつきましても、イベント情報が少なくて、あっても１ヶ月前のものしかなく、なかなか旅行の予定が立てにくいというようなご意見をいただいております。現状の取組みにつきましては、大阪府が中心になりまして、記載の事業に取り組んでいるところでございます。

説明につきましては以上でございます。

**福島会長**

どうもありがとうございました。

説明は今お話しいただいたとおりですが、この説明に対する質問等は、このあとの意見交換の中で併せて確認させていただくことにしたいと思います。

　それでは、これから意見交換に入らせていただきたいと思いますが、本日は第１回目でもあります

ので、フリーディスカッションということで、私も１委員として発言をさせていただきたいと思っておりますので、この意見交換の進行は、事務局にお願いしたいと思います。

それではよろしくお願いいたします。

**司　会**

それでは、ただいま会長の方からご指示がございましたので、誠に僭越ではございますが、事務局の方で意見交換につきましての議事を進行させていただきたいと存じます。それでは、先ほどの事務局からの説明に対する質問等を含めまして、「大阪における観光客の受入環境の現状と課題」などにつきまして、最初でございますので、佐藤委員から順に、武内委員、田中委員、最後に福島会長の順で、それぞれのお立場から幅広くご意見等を頂戴いたしまして、そのあと、それぞれの委員のご意見等も踏まえながら、自由な意見交換という形で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、最初に唐突ではございますが、佐藤委員、よろしくお願いいたします。

**佐藤委員**

追手門学院大学の佐藤でございます。地域創造学部というところにおりまして、観光が専門ということではないのですが、旅行の研究とかそういったことはしたことがありまして、それと街を歩いてみて色々と感じることとかを申し上げたいと思います。

大阪も京都もそうですが、本当にここ数年で外国人に会う率が非常に増えてきて、それも観光地だけではなくて、都心の百貨店とか日本人が普通に出かけるところにもずいぶん外国人が増えたというのが、皆さんも実感として感じていらっしゃると思います。

そういう風に感じますと、必ずしも観光地開発が必要なのか、もっと本当に普通の日本人の生活ライフスタイルを楽しんでいただくようなところが良いのかをこれからすごく考えていかなければならないところではないかと思うのです。

例えば、心斎橋などを見ていますと、昔の心斎橋ではなくて、逆に海外の人向けのお店が増えたりとかそういうことがずいぶん目立ってきているのではないかと感じます。それは必ずしも一般の日本人にとって、このままいくとどうなるんだろうと、段々と大阪の魅力とが薄れていくのではないかという不安の部分も現在、少し出始めているのではないかと思います。

そういう意味では、マナーというか、エレベーターに一緒に乗っている中国の方々が賑やかに喋っていて日本人が小さくなっているような、そんな場面が、幾らでも見られるようになりましたので、日本人も楽しいし、海外からの来られるお客さんも一緒に楽しんでいただけるというのは、どうあるべきかと言うのは、単に数を増やすということだけでなくて、そこは考えていかなくてはならないところだと思います。日本の良さも感じていただきたいですし、大阪の楽しさを感じていただきたいので、単にお客さんとして歓待して、たくさん来ていただくというのと違うこともそろそろ考えないと、このままではかえって将来的に都市としての魅力がだんだん薄れていってしまうのではないかと思っています。

だからといって、適正規模が何人でそれに併せて抑制するというような段階では、まだ無いのかも知れないですし、最初に事務局が言われたもっと府域全体とか、大阪を入口として色んなところに行っていただくという、そういう入り口に大阪がなっていくということも大事なことではないかと思います。

それから、エンターテイメントという意味では、まだまだ夜に遊びにいくところがほとんどなくて、皆さん困っているのではないかと思います。ツアーの方はまだしも、一般のお客様にとっては、東京のはとバスのようなものがあって、海外ではそうなのですが、色々なオプションに乗れますけど、大阪にはなかなかそういうものがないのではないかと思います。そういう意味では、これから段々と観光客も団体客から個人客に変わってくる時にどういうサービスを用意できるか、もう少し考えて、開発していかないといけないのではないかと思います。特に夜は、日本人は食べに行ったり、飲みに行ったりするところはたくさんありますけれども、海外のお客様はそれだけじゃないものを求めていると思いますが、そういうものにもほとんど対応できていないのではないかと思います。

京都にそういう方が結構流れているのではないかなと思います。と言いますのは、電車に乗っていても、京都のそういうところが掲載されているパンフレットを持った人をよく見かけまして、大阪でも時間をもっと有効に楽しんでいただくと言いますか、それがお金も遣っていただけることになりますので、そういうところを用意するのは大事なことではないかと思います。ずっと言われ続けておりますが、出来ていないのがこの辺りではないかなと思います。以上です。

**司　会**

　佐藤委員、どうもありがとうございました、それでは、続きまして、武内委員、よろしくお願いい

たします。

**武内委員**

コングレの武内と申します。

ビジネスとして専門にやっておりますのが、コンベンションの誘致、準備・運営、それから、うめきたでのコンベンションセンターの運営などをしております。

ちょうど京都で２００７年に、ある総会を担当したのですが、実は毎年、ちょうど今の時期、ゴールデンウィークのあたりにやる会議でして、数千人という方が参加されるのですが、京都の場合、なにもゴールデンウィークにしなくても･･･という状況で、宿泊施設をとるのもバスを走らせるのも非常に苦労したという経験があります。

本来、コンベンションは何千人という参加者ですと経済効果も大きいと歓迎されるのですが、ちょっと不安に思っていますのは、今、この段階にきまして、大阪にも引き続き、コンベンション誘致の活動をしていくのですけれども、果たしてそのとき宿泊が取れるのかとか、そのまとまった期間を　ユニークべニューと言いまして、パーティーとかを少し会場から離れたところ、大阪城など少し変わったところで企画するのですが、動くときに交通手段が確保できない、大幅に遅延するとなると、がっかりさせてしまったり、やろうにもできないということにならないのかなどが非常に気になる点と思っています。

そうは言っても大阪は大ビジネス都市で、地方で宿泊を確保するよりも、よほど多くの部屋数があります。ただビジネス都市だけにビジネスマンが泊まれないということになると問題。

宿泊施設の確保、できれば後ほど教えていただければと思いますが、大阪でいざ泊まろうとした時に何室くらい全体で確保できるのか。今これ、大型のコンベンションを誘致するときに、常に問題になっています。特に格が高いというかトップの方々が集まるとなるとスイートの数まで格付けが必要ですけれども、ＭＩＣＥは、一般の観光以上に消費額が大きいと言われており、経済効果を考えますと、今後、その当たりも充実されればと感じております。広域での誘致ということでは、福岡を中心に九州全域でポスト、プレカンファレンスを含めての九州誘致の動きもありますし、関西も勿論、大阪以外には周辺に京都もあり、神戸もあり、奈良もあるということで、色々な魅力がたくさんあるエリアですから、どうにかしてうまくそのあたりをプラスして、広域にも大阪にもメリットがあるよう、考えていければと思います。

**司　会**

　武内委員、どうもありがとうございました、それでは、続きまして、田中委員、よろしくお願い申

し上げます。

**田中委員**

私の専門は、実は観光とは全く関係がありませんでして、税法あるいは財政法を専門にしています。

いわゆるパブリックがどういう形で色々な施策を遂行していくのか、その際の財源あるいは負担構造をどのようにするのか、法律学的な観点から色々研究をしたり、提言をしたり、あるいは色々な地方団体がいわゆる法定外税、ようするに地方税法以外が決めているそれぞれの地方団体が独自で色々なことを考えて、施策を実施する際の色々な財源をどう整理するかという、それほど経験は多くはありませんが、そういう形でのお話しをさせていただきたいと思います。

そういうことで、観光政策をめぐる現状がどうだとか、その中でどういう印象を持っているか　　　ということについては、極めて断片的で自分の個人的な経験くらいでしか申し上げることが無くて、この4月の花見の時に大阪で講演をする必要がありまして、そこで宿泊を取ろうとしたがなかなか取れずに非常に苦労いたしました。必死の思いでインターネットで宿を探したという、そういうことがありました。

それは観光客が増えてくるにつれて、宿泊の質だとか、それをどのように向上していくのかなどについても今後は重要になってくると思いますし、もう一つはどうなるか分かりませんが、そういう波が引いた場合、特に箱モノを作った場合に、それが今後どう低下するのか、そういう問題も含めた見通しですとか、民とパブリックがどういう風に共同して処理していくのか、非常に難しい問題があるような気がします。そういうことで、私がいわゆる観光に関して、直接こうすべきだとか、政策提言は殆ど十分なことが申し上げることが出来ないと思っているのが一つです。もう一つは、先ほど申し上げましたように、色々な施策と色分けを事務局から説明を聞いた限りでは、やはり処理しないといけない問題やあるいは課題が非常に多いと感じました。その際、民が処理すべき問題と、パブリックが処理すべき問題の振り分けみたいなものをどう考えたら良いのかというのは非常に難しいということを改めて感じました。と言いますのは、私が今まで色々な地方団体で経験させていただいたことで言えば、例えば、地方団体の環境税、滋賀県の琵琶湖を守っていくという環境税ですとか、あるいは産業廃棄物税とか、そういう環境を守るという点では社会全体で支えていこうという優先度が相当大きいと思います。そういうものを公の税なり、それに近いもので負担していくことについては、ある程度合意が得やすいと思います。ただ難しいのは、観光は、日本に住んでいる国内に住んでいる人の生活とのバランスをどうとるのかとか、国内観光客と海外からの観光客達とをどう考えたら良いのかなど、色々な利害関係みたいなものを単純ではなさそうですので、その辺りの振り分けが必要となるのではないでしょうか。そういう点で色々な施策を実施していく場合の負担の仕方としては、より公共性の高いもの、優先度の大きいものをみんなで負担するという発想から、直接、限定的に利益を得る人、いわゆる受益者負担のような考えで負担をしてもらうのかとか、あるいは色々な問題になるような原因をつくった人にそれなりに負担をしてもらうのかとか、色々な考えが錯綜しているので、現状をどうみるのかということがポイントになるのと、それを一体誰がどういうふうにして負担していくのかということを絶えず突き詰めて考えていく必要があるのではないかと思っています。

３番目は、私は、実は今、同志社大学で教えていますが、その前は大阪府立大学で２７年間、仕事をさせていただいて、大阪との関わりは相当深いのですが、ただ、大学と家との間しか知りませんで、例えば、外国の人がよく行っていると言われている道頓堀とか、大阪城とか行ったことがあったかと言えば、行った記憶がありません。そういうことで、特に外国人旅行客は大阪を訪れたときに、道頓堀とか大阪城とか、一体何を魅力に感じているのか、その辺りをもう少し知りたいと思っています。

あと、観光をより広域的な処理として、大阪府域に広げていく場合に、どういう方向性で、どの地域のどういう魅力を発掘するのか、それを作っていくのかといった、方向性をどう考えていくのかということもある程度施策として具体化する必要があるのではないかと思います。以上です。

**司　会**

　田中委員、どうもありがとうございました、それでは、福島会長、よろしくお願いいたします。

**福島会長**

関空の会長をしております福島と申します。

武内委員もそうですが、私も日々、お客様に接している一人じゃないかと言うことで、先ほど、受入環境の現状と課題について事務局から説明がありましたが、全くそのとおりだと痛感をいたしております。その背景としては２つかと思いまして、1つは外国人観光客が急激に増えてきたということです。関空でも一昨年は500万人、昨年、2014年が700万人と1年間で200万人増えています。これはアジアの人が中心でして、中には飛行機に初めて乗って海外に行かれた方とか、爆買いと言って、トランクを２つ３つ持って買い物をする、日本人でしたら１分で済むところが、５分、１０分かかるとかですね。ここに書いてあることはまさしく、そのとおりだと思います。

もう1つは、訪日外国人のお客さんの構造変化というか、旅行スタイルが変化してきているということです。これはご存知の方も多いと思いますが、団体旅行から個人旅行、グループ、家族旅行に変わってきているということです。それから一律的な周遊ルート、いわゆるゴールデンルートと言いますが、関空から入って、大阪、京都、箱根、ディズニーランドに行って、銀座で買い物をして帰るというルートで、これの逆もあります。こういう一時的な周遊ルートですが、最近はもっと進化してきておりまして、体験型ですね、例えば、いちご狩りをするとか、何か体験するのが増えているのと、もっと一定の地域に腰を据えて、地域で周遊するという観光が増えきています。

また、リピート客が増えています。韓国、台湾、香港の旅行客の大体、60％～70％がリピート客でして、リピート客は大阪市だけではなく、大阪府下の色んな街に外国人旅行者を迎えるチャンスがあるということですけれども、このように流行性が変わってきていまして、これには受入側の対応が追い付いていないのが現状で、先ほど説明いただいた現状と課題が露見してきているのではないかと思っています。

今後は、たくさんの旅行者に来てもらうのと同時に、量も大事ですが質、その両方を目指して取り組んでいくことが私は必要だと思っています。

審議の方向として３つほど考えてみましたが、一つは官と民が行うことを一度、事務局の方で整理をしてもらいたいと思っております。例えば国が行うこと、実は関空も出入国に１時間とか２時間かかるということでお客様から凄いクレームをいただいています。関空としては改善に取り組んでいきたいのですが、CIQ（税関、出入国管理、検疫の出入国の際に必要な手続き）は国の管轄でできないのです。極端に言えば、関空が人もお金も出させてもらっても出来ないのです。これはやっぱり、お客様の出入国は国がやらないといけないことなのです。この前、ゴールデンウィークの時に、ロサンジェルスに出張で行きましたところ、行く前には、大体入国に１、２時間かかると言われていたのですが１０分で終ったのです。これはＥＳＴＡ（エスタ）と言いまして、海外のお客様から、確か１５００円か２０００円いただきまして、大きな自動チェック機が６０台ぐらいあるのです。確か２０ヶ国語ぐらい多言語の対応で、それで８項目ぐらいタッチパネルを押していくのです。最後に後ろからカメラが出て写真を撮られ、そのあと下から顔写真が入っているレシートが出てくるのです。それを入国するブースに持っていったら、それで入国が出来るようになっています。こういうことを国がやることが戦略じゃないかと思います。

それから、大阪府、市、観光局、これは地方自治体という括りで良いと思いますが、ここがやることとしましては、例えば、さっき出ていました観光バスの駐車場、これは行政の仕事じゃないかと思います。それから、大阪Free Wi-Fiは、観光局が一生懸命やっておりますので、もっと大きくしていったらよいと思っています。

それから民間がやることですが、例えば、資料にもありました関空からの深夜バスがないということについてたくさん苦情をいただいているのですが、これにつきましては、今度、夜中に１時、２時、３時、４時、５時とバスを出すことにいたしました。しかし、関空だけでは出来ませんので、南海バスに色々とお願いをしまして協力してもらっています。Free Wi-Fiも関経連が中心に「KANSAI Free Wi-Fi」というものをつくろうとしています。パスにつきましては、来年の4月からＪＲ、私鉄、地下鉄、バス、船が１枚のパスで使えるようにいたします。外国人だけが使えるパスを作ります。これは、民間とか経済団体がやっていることです。ショッピングももっと、営業時間を延ばしてはどうかということについて、これをやるのは事業者さんです。心斎橋通りでも、午後８時になったら大手のお店は、ほぼ閉まっておりまして、開いているのは、コンビニとドン・キホーテだけぐらいです。それぞれ、官と民の役割をきちんと整理をしていただいて、それなりの形で皆さんにアピールし訴えていくというような整理をして欲しいと思います。

２つ目は、当たり前ですが、時間軸の整理ということで、すぐしなければならないこと、やれること、それから、少し時間がかかるものを中期、長期に分けることの整理をして欲しいと思っています。ホテルの不足などについては、建てようとすると最低でも２年か３年ほど時間がかかる訳です。岡本局長と大阪には土地がないという話しをしましたが、ホテル事業者はやはり立地が一番大事ですから、余り外れた所に行きたくないと言うことです。すぐ出来ることは、旅館の稼働率はそれほど高くないので、旅館へ色々サポートをして、外国人の受入をもっとしてもらうようにすることなどはそれほど時間をかけずにできることではないかと思いますので、時間軸での整理みたいなものをやっていただきたいなと思っております。

３つ目は難しいのですが情報発信です。情報発信も２つあって、基本は戦略的に行うということと、お客さんの立場で行うということです。今の大阪府・市の情報発信は多言語にはなっておりますが、まだまだ日本語だけで行っているところもありますし、バラバラで行っています。情報発信と言うのは簡単ですが、実際は難しいと思っています。特にお客さまに対して、これは日本人観光客に対してでも良いのですが、お客様に向けての情報発信のあり方について、ぜひこの会議で整理をしていただきたいと思います。

別に３つほどで、一つは、佐藤委員も話されておりましたが、これだけ観光客がくると、京都の人などは、もう来なくても良いというような暴言を吐く人もおられるようですが、それは幾ら何でもどうかと思います。ただ大阪でも、観光バスが駐車場からはみ出て駐車している場合でもそこのお店の人は、

外国のお客さまが自分のところでベネフィット、リターンがあるから何も言いません。しかし、普通に生活をしている人にとっては邪魔なのです。少し早いかも知れませんが、観光客と地域とか、そこで住んでいる人達との共生といったものも宿題の１つではないかと思います。

去年、パリに行きましたとき、パリの観光局長みたいな人にお聞きしたのですが、パリの売り物は何かと言いましたら、パリジェンヌのライフスタイルが売り物だと言うのです。それでは、大阪府民、大阪市民のライフスタイルはどうかと言いますと、結構、ユーモアだとかが色々とありますので、そういう事も含めて観光客も大事にしないといけないが、住んでいる人たちとの共生といった点も視野に入れていく必要があるのではないかと思います。

大阪の都市魅力創造の取組みは、資料で見させていただきましたが、恐らくあまり知られていない方が多いのではないかと思うのです。

フィールドワークということで、ある人に連れられて、大阪市内を歩くということを２コース　　　いたしました。物凄く面白い大阪の話を色々しながらずっと街を歩いて、歴史博物館から大阪城を眺め、最後は中之島のテラスで食事いたしました。

色々と大阪にも素晴らしい都市の魅力がたくさんありますが、もう少しシステムアップと言うのでしょうか、ストーリー化すると言いますか、物語化すれば、もっと大阪の魅力が輝くのではないかと思います。大阪は大都市ですから、街歩きみたいなものを戦略の中に取り入れてみたらどうかと思います。

３番目は、この会議は大阪中心ですが、常に視野は広域でと言うことで、関西全体で観光を研究するそういった視点もあれば良いのではないかと思います。まとめになっておりませんが以上です。

**司　会**

　福島会長、どうもありがとうございました。

それでは、ここからはただいま、委員の皆様方からいただいて意見を踏まえまして、意見交換とい

う形で進めさせていただきたいと思います。なお、事務局といたしましては、委員の先生方から貴重なご意見を出来るだけたくさんご頂戴したいという思いもございますので、僭越ではございますが、

事務局の方から委員の先生方に少しご質問をさせていただいたり、ご発言を求めたりすることもあろ

うかと存じますが、なにぶん、よろしくお願いをいたしたいと存じます。

それでは、よろしくお願いを申し上げます。

**事務局：岡本局長**

それでは、皆さんのご意見を引き出すということで、少し私の方からお話しさせていただきます。

私も都市魅力創造局長ということで、海外のツーリストの方々から、アジアの観光客は、大阪城には行かずに車窓見学ですと。駐車場から１５分も歩かせて行かせるなんて酷いですと。ではどこに行ったら良いのか教えてくださいと言われます。そうすると我々大阪人としては、例えば、万博に太陽の塔がありますとか言っても、それが海外の人にとったら何なのかと。我々が良いと思うものと海外の方とでは差があります。市内だけでなく、最近は犬鳴温泉には多くの外国人が来て潤っているみたいです。我々は他にもたくさんあるとは思いますけど、そういう所というのは、府内ではあるものの必ずしも交通が便利ではないし、それから観光バスの駐車場や、あるいは他の一般の車の駐車場が整備されていません。それでも行き着けば良いところはたくさんあります。特に外国人だったら冬に金剛山に登って氷雪を眺めるとか、そういうのもございますけれども、いわゆる我々は府域に色々なものを持っておりましても、駐車場がない、案内板がない、あるいは交通の便が良いところではないという環境で、ただそれで駐車場を整備して、交通の便を良くしてそこが流行るかということです。

実は不便ですけど頑張って行ってくださいという無いところの良さ、何も無いことが良いとは思いませんが、そういうものはあるのではないかと。行き着けないとか、行ったところで案内板の表記が日本語しかないとか、それは駄目だと思いますけど、今のまま置いておいた方が良いのかというところもあるのではと思います。

例えば、富田林の寺内町には観光案内所もでき多言語化しようと、ここにたくさんの人を寄せるといい街なのかどうか、海外のツーリストからは、もっと見るところを増やせと言われていますが、その中で犬鳴温泉の惨状をどう見るのかなど、実は色々と悩み深い訳です。

楽しいものもあり、見るものもあるのですが、温泉でトラブルが起こっているとか、新聞にも出ましたし、テレビにも紹介されましたが、お風呂に入っていて、外国人が２０人も水着を着て入って来られると、一人二人の日本人は、居場所を失います。でも、それは文化の違いであって、理解していただければ良いと思うのですが、旅館とかにお話をしに行っても、困る困ると言われます。あるいは、欧米の人は、小さい風呂とか共同の浴場の日本の旅館には泊まりたくは無いという方々も多いでしょうから、一体そういった中でどうしていくべきか非常に悩ましいところです。

今年、大阪はシンボルイヤーでたくさんのイベントを行います。

光は見てもらったら分かりますが、他のイベントは日本語でやりますので、海外から来た人がこれを楽しめるかと言うと、タレントさんとか有名人も来ますけれども、言葉が分からないだろうから楽しくないと思います。そこで、今年は、水都のイベントで大阪の街を歩きながら宝探しを行うというトレジャーハンティングを英語と中国語で行うこととしました。外国人観光客を狙ったイベントは初めてです。その代わり日本人には分からないけれども、日本語だけの日本人向け水都のイベントばかり行わずに実験的にやりますけれど、それにしてもやはり本当のスポットは点に過ぎず、それでは、我々どうしたら良いのか悩んでいるところです。

特にイベントは、大阪市域以外の府内の広い地域、市町村はいっぱい良いところを持っています。能勢も素晴らしいと思いますし、千早赤阪村の棚田とか見ましても、日本の原風景がありますし、こういうところをやっぱり、バックパッカーなど自由に行ってもらうにはいいのですけども、どうなるか分からんという事情もあると思います。

先ほど、武内委員から、ユニークべニューのお話しが出ましたが、我々も、民間の色々なところからイベント、あるいはパーティーをしたいという声をお聞きします。この秋も、ある団体が世界大会を企画しておりますが、施設を持っている人は提供をするけれども、インフラだけは用意をしてと言われますので、そういうことも必要なのかどうかも少しご議論いただいて考えていきたいと思います。

とにかく、府域全体に広げるにはどうしていったら良いのか、おもしろいものもあるが課題も多いと思っています。だから、こういう事も踏まえて、その分整備もしなければならないものもたくさんありますけれど、どういう形が良いのか、ご意見をいただきたいとも思います。

最後にひとつ、例えば、御堂筋イルミネーションは、今年いよいよ梅田から難波まで全部通すのですが、つい最近言われたことは、そこまで延ばしても、外国人にも日本人にも言わせると、歩くにしてもトイレが少ないからトイレを作ってくれと。ミナミまで行きますとありますけれども、確かに淀屋橋とか本町辺りは、オフィス街でトイレがありません。観光客にトイレ、トイレと言われましても、こういうことまでやらなければいけないのかなと。ビルを紹介しても良いですけど、イルミネーションは午後１１時まで点けておりますので、安全上、ビルの方も閉めておられると思います。そういうことも踏まえると、我々も、この大阪の街に公衆トイレが少ないのかなと考えられない訳ではないのですが、公衆トイレを作らないのは実は治安上の問題もありますので、だから、中之島公園にも１箇所しかございませんし、作らないのですね。そういう色々なことを踏まえながら考えていかなければならないと思いますので、しっかりご意見をいただき、まとめていければと思っております。

**福島会長**

色々あるとは思いますが、継続は大事だと思います。光の饗宴は、実際１２回目であり、凄くビッ

グイベントとなっています。これは良いと思います。ただ、その情報発信の仕方が外国人に限らず、府民とか関西の人とか、もっと言えば日本全体に、そこら辺りがもう少し工夫されたら良いのではと思います。ちょっとトイレの話しは置いておきますが、行ったら楽しいですよ。歩くだけでも楽しいですし、冬の季節で、従来のイルミネーションをやっていない時に比べたら、凄く人通りが多いはずです。何がしかの経済効果もあると思います。外国の方には、もう少し、海外のエージェントと組みながら、例えば桜と違って、日はフィックスしていますから、可能だと思うのです。

**事務局：岡本局長**

御堂筋は真ん中から見る景色が綺麗ですので、オープンデッキのバスを民間業者と企画して走らせ

ています。

夜の光をオープンデッキのバスで走って見ていただくという試みは始めました。歩くだけではなく、バスで４キロですが通過していただこうということです。これはこれで面白いと思うのですが、ただ、そのようなオープンデッキのバスが大阪にはたくさん無いものですから。あれは上を空けて外を見てライトを見ないと綺麗ではないので。

東京に行けば、はとバスとか、オープンデッキのバスはたくさんあるみたいですが、大阪に無いというのはこれまた、官と民の話になるのですが、そういうことも始めていることは始めています。

ただ、本当に今の客の急増に追いついていません。実は、元々年末で忙しいとは言え、イルミネーションの間もホテルが取れない。そういうところでまた、悪循環が働いているのは事実です。

**佐藤委員**

個人観光者は、ひとつひとつ電車に乗ってとかではなくって、やはりツアーを利用しています。そのほうが楽だし、語学が喋れる方でもその方が楽という方もいるぐらいなので、というのも良いとこ取りが出来るから。自分一人で行くと、結構ロスタイムもあるので、良い所に連れていってもらいたいというのもありますし、それは民間事業者の方達ともミーティングが必要なのかも知れないですけれども、多分、民間事業者は、そういうことができると思っていないのではないでしょうか。それだけ人が集まるかということなので、そういう意味では、官の方である程度入り口のところというか、宣伝というか、方法というか、そういうことをやれば、色んな面白いルートが出来てきたら、それは魅力的に、先ほどのオープンバスではないですが、乗れなくてもそういうものがあると言うだけで、魅力的な感じがするし、他にも見るようなところがあれば、夜景みたいなものと組み合わせも出来るし、トイレと言えば、地下鉄のトイレをそういう時だけ流用するとか、そういうことは全然可能だという気がします。

パスがあれば行ったり来たり入ったりが可能な訳ですから、トイレも全然使えますよ。

そういう期間だけそれを使ってもらうというのは、工夫が出来るような気がするのです。

それと不便なのが絶対にいけないではないと思います。例えば、ヨーロッパに行ったら、トイレは百貨店の上にしかないみたいな、どうしてこんなに並んでいるのだろうと思いますけど、そういうものだと思って皆さん行っているのです。勿論トイレはあったほうが良いとは思いますが。

郷に入れば郷に従えという言葉もあるので、何もかも、変えてしまったら逆に行く意味が無くなると思います。そこをどう楽しんでいただくか、不便は不便なりの楽しみ方、不便でも裸になることを楽しむというか味わっていただくのにどうしたら良いか、バスか何かで行くといると思うので、そういうものをちゃんと案内する人、貼ってあるだけではなくて日本の文化をお知らせするようなコンシェリュジュ、そんな高級なものでなくても良いが、ライフスタイルに近いところのコンシェリュジュ的なことを教えて上げられるような、そういうものがあれば、それがコミュニケーションになるので、結構楽しいことではないかなと。何もかも説明できなくても、そこに行ったらそのことは説明してもらえるとか、そういうものもあった方が良いのではと思います。

自分の文化と違う、知らないことをしたいから海外から来ている訳なので　そこをちゃん教えてあげられるようにするのが良いのでは。それに最近では、水着じゃなくてお風呂に入っているというのは色々な所であると思いますけれど。温泉好きとか、最近、東京の大江戸温泉物語というところが凄く流行っていますよね。外国人の方もたくさん行かれているみたいで。ああいう所にも行かれるようになったので。そこに行けば全体がそうだから、そうすべきだと言うのは非常に分かり易いと思います。

そういうステップを踏ませるというか、ステップをちゃんと作れば、それは楽しみになるのではないかと思います。

どちらかといえば、マイナスをどう楽しんでいただくかという風に考えた方が良いのかも知れないけど、確かにトイレは困るので考えたほうが良いと思います。

色々な駅で、ＪＲはトイレを全部綺麗にしようとしていますが、それは日本人も、良いことやっていると言ってくれますし、最近は変わりましたが、最初、新大阪の駅はほとんど和式だったのです。皆並んでいるのに、トイレは空いていると。日本人ですらそうなので、外国人向けというとそれはそれで嫌らしい感じがしますけど、今はライフスタイルからすると洋式は当たり前なので　そういう風な外国人の観光客だけと全然言う必要は全く無くて、色々と綺麗にしましょうと言う方が良いかなと思います。

**福島会長**

関空ではお客さまから、トイレが凄く汚いと言われまして、今はないですけど。調べますと、中国の観光客はトイレで紙はゴミ箱に捨て、水を流さないのです。トイレに大きな注意書きとして、トイレットペーパーは便器の中に流して下さいと貼ることにしました。それと、立ったら流れるトイレも全部整備しました。

しかし、これは文化の違いで何も汚くしようとしているのではなく、あの人達は、それで生活してきているのです。今はほとんど無くなりましたけど、なぜトイレで流してないのはどうしてだというクレームが物凄く多かったのです。

ハラルについてもそうです。イスラムの人は基本的に１日５回お祈りをします。日本人の中には、イスラムの人でも、アルコールも飲んでいる人がいるではないかと言う人もいますが、基本的にはアルコールは飲まないです。豚も食べないです。大阪ではポークフリーとかアルコールフリーとかの店が少ないです。関空では１０何店舗ありますけど。ある外食産業の人にハラル料理を出したら儲かりますよと言いますと、ようやくこの前テレビで出ていましたね。民間でやるのか、やはり、府、市がやるのか観光局なのか、全部行政で出来るはずはないが、やりましょうよというコラボレーションが必要だと思います。

教会は結構増えてきています。関空には３つありますし、堺にあるし、難波、梅田にもあります。

地域にあれば良い訳で、そういう受入環境について、聞けば当たり前のことなのですが、なかなか気がつかないことが多いです。

ホテルはどうですか。私が一つ心配しているのは、新聞でＡＰＡホテルが宿泊料金で３万５千円取ったと。ぼったくりではないかと。これがまた、お客さんから評判は悪くなる訳です。

**事務局：岡本局長**

他にも、あるミナミのホテルで、家族４人を一人当たり８万で泊めたなどという話しがまことしやかに流れております。大阪の文化なのかもしれませんが、観光バスについても長堀の駐車場が空いているにも関わらず、２０００円が勿体無いから停めないとか、駐車場が満杯では無く空いているのに２０００円、３０００円が高いから停めないと。乗用車が１台５００円としたら、バスは６台分くらいスペースを取る訳ですから、３０００円だったら一緒なのですけどそれを高いから手前に停めるのだと。確かに駐車場は、足りないところの方が多いですけど、さっきのホテルの件といい何なのかと考えてしまいます。

**佐藤委員**

今入ってくる観光客の方々は、昔は、安くないと日本の観光地ホテルに来ないということがあり、修学旅行生を呼んで安く泊めていたと聞いてことがありますが、今はどうなのでしょうか。結構人気スポットになっていて、例えば、日本のホテルも、海外のお客さんにとって高くなったというか売り手市場になっているということはないのでしょうか。

**武内委員**

ホテルは専門と言う訳ではないですが、結構、海外でも時価です。お客さんが来て、混めば上がると。ニーズが増えてきたということであれば、民間基準からいくと、世界的には上がっても仕方がないと思います。しかし、国内需要的には非常に困ります。グレードもついていってもらわないと。会議参加者に提示する場合はランク別にしますし。ただある程度の値上がりは仕方がないのかなと。

そういう時に、もしかしたら、宿泊税とかの還元策を取るということになるかもしれませんが。

**佐藤委員**

資料のデータを見せていただくと、旅館での宿泊客が減っていましたが、旅館の方達としては、増やそうと言う気が余りないのか、色々な問題等が起こるので外国のお客さんは余り入って欲しくないのかどうなのでしょう。でも、そうしますとこのままだとじり貧になっていくと思うのですが、その辺はどうなのでしょうか。

**事務局：西野副理事**

具体的にお話しを聞いてという訳ではありませんが、一つは大阪府内の旅館については大阪市外に多く、箕面とか能勢ですとか、東大阪ですとか、南の方ですと泉佐野の犬鳴とか、中心地から離れているということがあると思いますし、旅行者は、市内での観光が多く、そうした点で市内のホテルに宿泊するという地理的なことと、後は、旅館は畳の部屋が多く、その点でニーズ的にどうかという問題があるのではと思います。

大阪観光局長が、ホテルや旅館の経営者と会合をいたしましたが、ホテルの稼働率が非常に高いということもございますので、今後、旅館を日本人も含めて、いかに外国人の方々に利用していただけるようにするのかが課題ではないかと思っております。

そもそも、やはり大阪と言うと都心で、旅館というイメージがないことも一つの要因では無いかと思いますので、ＰＲも必要ではないかと考えております。

**事務局：岡本局長**

旅館は１泊２食付きとして食事で利益を上げています。外国人旅行者は、どちらかと言えば、大阪を色々見たあと、夜遅くに宿に入ります。夕食を宿で摂らずに朝食だけを摂るという宿泊では、旅館は一番の収入源がなくなります。今後、旅館へ働きかけていくつもりですが、そういう問題があるのは事実です。そういう意味では、受入側が望むものと宿泊者とのニーズがマッチングしないという事実がありまして、簡単ではない面はあるなと思います。

**事務局：西野副理事**

先ほどの武内委員からご質問のございましたホテルの客室数ですけれども、平成２５年度の厚生労働省のデータによりますと大阪のホテル客室数は、平成２５年度現在で約５万７千室となっております。平成２０年度が約５万１千室ですので、１１％ほどは伸びておりまして、東京がこの５年間で４％の増加であり、伸び率としては大阪の方が高いのですが、東京の客室数は約９万８千室ですので、大阪は東京の半分ですので、まだまだ不足しているといった状況です。

**佐藤委員**

自分が泊まるかどうかは別として、最近のカプセルホテルは、以外におしゃれというかおもしろいということで外国人に人気があると聞いたことがありますが、大阪にもカプセルホテルとか、結構有るのでしょうか。

**事務局：西野副理事**

大阪にも梅田、心斎橋、難波、このあたりに何軒もございます。

**佐藤委員**

それは、日本人向けというか、外国人向けではないのですか。

**事務局：西野副理事**

　最近は、外国人も泊まられているようです。

**佐藤委員**

カプセルホテルであれば、作りやすいというかすぐに作れるのではないですか。良いかどうかは将来的には別ですけれども、今までのイメージと全然違うものであれば、そういうものもおもしろいのかなと。東京ではそれが結構話題になったりしていますし、おしゃれなカプセルホテルとか、そういうものはこれからどうなのでしょうか。それから、少し気になったのですが、関空に深夜に降りた外国人はどうされているのでしょうか。

**福島会長**

幾つかのパターンがありまして、一つ目は、少しシャワーでも浴びていただいて空港でお泊りいただく。２つ目は、バスで少し遠くに行くのです。ちょっと極端ですがバスに乗って広島や、岡山に行かれます。和歌山の白浜などは３時間もかかりませんから。

１時半とか２時半に関空に着く飛行機がある訳ですが、それからバスに乗って梅田に向かい、朝の４時頃に着いたら、５時には電車が動きますので少し時間をつぶすパターン。一番多いのは、空港のベンチで過ごすパターンで４、５百人はいます。毛布などは無料で貸し出していますが、今後こういうのは増えると思います。

**佐藤委員**

対岸くらいにカプセルホテルではないですけど、もう少しましな･･･。

**福島会長**

有名なファーストキャビンといって、カプセルホテルよりも少し上等で女性が一人でも泊まれるというホテルがありますが、難波などでは満室になっています。これを空港でもやれないか考えていますが、こうした宿泊施設の不足が、ある意味、海外からお客様を迎えるボトルネックかも知れません。

**佐藤委員**

何時間かだけでもちょっと仮眠したいという人にとっては、そういう簡易的な、だけど快適なものがあれば、それはそれで、他の宿泊客のパイ全体としては良い訳ですから、府に作れという訳ではないですが、考えていただいてそういったものを誘導してくるというのは必要かなと思います。

**福島会長**

関空にはソファーがフラットになるラウンジがありまして、深夜に空港に着いたお客様が、そのラウンジで過ごすというパターンもありますので４種類です。

**武内委員**

　余り現実味のないお話をしてもどうかと思いますが、戦後復興において、ドイツが展示会を産業

にしようということで、ハノーバー等をその拠点としたのですが、ハノーバーは、現在、毎年世界最大規模の国際産業技術見本市であるハノーバー・メッセが開催される都市ですが、当時は、宿泊施設がそれほど無く、すぐに建設も出来ないといった中で、何をしたかと言いますと、民家の開放といいますか、ホームステイを多く受け入れることなどで宿泊ＯＫとして、外国の方が泊まるところを確保されたと聞いています。だからと言いまして、それが大阪で出来るかといったときに問題はあると思いますが、アイデアの一つとしてお話しをさせていただきました。

今、団地が余っていると聞きますので、それを宿泊施設に変えるとか、臨時措置でしかないかも知

れませんが、ランクといいますか、レベルといいますか、バックパッカー向けからラグジュアリーまで色々な違いもあったりするとは思います。とにかく泊まってもらおうとするのであれば、空き室問題や、団地の活用などは考えてはどうかと思います。

**事務局：岡本局長**

ホテルについては、役割分担では、官が作る訳にはないかないのですが、宿泊施設のネックの問題

ですので、武内委員が仰いました、府営住宅とか公営住宅などの空き家を宿泊施設として利用できるよう国に対し、特区を含めてお願いをしているところです。人を泊めるという業になりますと、非常に法の規制が強くて、基本的にはバツですので、我々ができることと言いましたら、特区でも作らせてもらって一時的にということで公営住宅の空き家を活用するということを府としては全力で国に認めてもらおうと、最低のことは法律に規制がありますから、クリアーしなければなりませんが、完璧にクリアーは無理ですので、空き家対策としてそういったことはやっているところです。

宿泊施設の建設に関してはお願いに行くしかないため、行政が持っている土地に作ってもらうぐらいしかありませんが、府が持っているりんくうタウンや咲洲周辺などの空いている土地は、立地が悪いからか、誰も買っていただけずホテルが来てくれないのです。

夜のコンテンツについては、ある企業さんが、実験的に年に何回か、夜の８時から１０時まで、外国人向けの楽しめるコンテンツとして１ヶ月くらい公演をしてくれておりまして、世界のつわものが集まる、いわゆるジャグラーが出てきたり、トランポリンをやったり、そういう人達が１０組ぐらい出てきて、ノンバーバルですね、そういう公演をされているのですが、1回目は７５％だった稼働率が前回は９６％になるなど、稼動は上がっているとのことです。

ミナミでやっておりますので、夜８時からのショーといいますか劇を楽しんだあと、公演が１０時に終わってもまだお店が空いていますので楽しめるとのことで、キタでやりますとショーが終わりましたら、店も大体、１０時にラストオーダ、１１時には閉まっている所が多く楽しめないとのことです。そういうものも稼動しだしました。

キタはとにかく、案内表示が分かりにくいです。我々でも梅田を歩けと言われましたら、上に行って、下に行って、右に行って、左に行ってと非常に分かりにくいです。そういった表記などは、逆に行政がするべきなのか、それだけ地下街が発達しているのですから、それぞれの管理者が責任をもってしてもらうべきではないのかと思います。４差路５差路と分かれていて、案内では上と示していますが、前か横なのか分からないものもあり、非常に不親切でこれを何とかしていただければとは思います。

大阪は、天王寺は最近ですけれど、キタとミナミに外国人が来られますが、キタは駅前に観光バスを着けられる場所がなく、駅前は大阪市さんの土地もありますが、観光バスが停車できるところを一つも作っておられません。そういう作り方をしておられるので、キタはどこも難しいというのがあります。やはり、ミナミにあれだけ外国人がいるのは、歩きやすいというのもありますけれど、観光バスが、一応長堀橋には停められますし、最近は日本橋のところにも観光バスの停車帯を作りましたが、キタは全く停車できません。

観光は広域なので、広域自治体である大阪府がするべきことなのかどうかでありますが、利益を享受するのは施設所有者であろうし誰であろうとあるのはあるので、そう思いますと、表示が分かりにくいままでは、キタに人が寄り付かないので、そういう意味で少し我々も何か考えないかんと、これからしていかなければいけないかなと思っています。

**佐藤委員**

梅田のスカイビルなどはよく外国人が来ているようですが、あそこは車が停めやすいのですか。

**事務局：岡本局長**

スカイビルはイギリスのタイムズ紙にも取り上げられ、外国人が特にヨーロッパの方々がよく来ていますが、福島のあのあたりは、観光バスが停められるようになっていまして、スカイビルは、路地の間みたいなところにございますので、バスを停めてビルに入れます。

しかし、大阪駅周辺はすごく難しくて、回り込まなければならないようです。

**佐藤委員**

うめキタ２期あたりはどうですか。緑ばかり作らないで、駐車場を地下に作られるとか。

**武内委員**

うめきた２期の地下に駐車場を作って、これまで以上に外国人観光客に来られてしまいますと、今でも渋滞で中々動かないといった状況ですので、地元がどこまで受け入れてくれるかなと思いま　　　す。

グランフロントで会議を行いましても、そういった意味で苦労します。

表示がわかりやすくなるのは良いと思いますが、果たして外国人観光客をビジネス街に呼び込むのがよいのかどうかは検討が必要という感じはいたします。

**事務局：岡本局長**

グランフロントの中は多言語化されていますけど、グランフロントに行き着くまでのところはグランフロントが整備している訳ではありませんので、そこまでの表示板がないのです。行き着いたら大丈夫なのですが、そこまでが行き着きません。例えば、地下鉄からグランフロントに行くのに、丁寧な案内板はありません。

**武内委員**

あの辺りは、いろいろな事情から禁止事項が凄く多くあります。官だけではなくて民の問題かもしれませんが、どっちがやるか別にしましても、完全に事業者側からの話として言い出しますと非常に難しいかと思います。

**福島会長**

お寺でもほとんど多言語化されていません。このあいだ、天満宮に行ったときに宮司さんとお話し

したのですが、気付かなかったと言われまして、その後整備してくれたかどうかは分かりませんが、天満宮や生玉神社さんなどパワースポットとして観光地ですのに多言語化されておりません。あれは、お寺がすべきことなのかどうかはあるかとは思いますが、例えば、京都などは高い拝観料を取っているから出来ているのかも知れません。

案内板のお客様目線の対応についてですが、梅田の地下などは案内の矢印が間違っている場合がありますし、私も矢印のとおり行ったら、全然違うところに着いたことがあります。これなどは、やはり事業者に整備してもらうべきではないかとは思います。

**事務局：岡本局長**

我々が中之島に開発したものがありまして、京阪さんに案内表示の相談をしたところ、鉄道会社は公共的なものしか表示ができないとのことでした。鉄道会社で内規を決めているので、大阪市の交通局も恐らく他社も同じだと思います。いわゆる広告的なものが載せられないようです。別に、人が年間に１５０万人行こうと２００万人行こうと関係なく、そういう表示はしませんということです。中之島の川沿い大阪府が開発した施設で商業施設ではないですと言っても、それは載せられませんということです。阪急電車はこちらとか、地下鉄はこちらぐらいは載せますが、何とかビル、何とか商業施設はこちらとかは拒否をされます

**田中委員**

そういった民間の間の移動の表示などを調整するような組織だとか機関、あるいは、民間の表示に関する公的規制などはないのでしょうか。そういったものは、無いままでいわば民間の中で自発的に処理をしているのでしょうか。

**事務局：岡本局長**

鉄道会社は、多方面から言われると困りますので、一定基準を設けているのだと思います。駅を出れば施設は何十とありますが、表示板には数箇所しか表示できません。あれもこれもとなりますとビジネスの問題になりますが、逆にそうなりますと公共が表示すべきとなるかも分かりませんが、それは果たして公共のすべきことなのか、元々、案内はサービスですのに、公共が案内表示板を鉄道会社から借り、使用料を払い、各施設の表示を載せるものなのかどうかは疑問に感じます。案内表示板には数箇所しか載せられないので、公的な場所しか載せられないという鉄道会社の論理も分かりますが、公共が行っても、グランフロントはこちら、ＪＲはこちら、阪急はこちら、その程度は載せられるのでしょうが、結局同じ事にならざるを得ないと思います。

観光客がたくさん行く所があって、その場所を載せると、全部載せきれないということがあります。梅田にはコンテンツがいっぱいあるので、全てを掲示することが出来ず、どこまでを掲示するかが

絞れないうえ、管理者によって表示が異なりますので、それが梅田は分かりにくい要因になっているのではと思います。

**福島会長**

資料の外国人の訪問地についても梅田は出ていましたね。

**事務局：西野副理事**

空中庭園、HEPファイブの観覧車などは出ています。

**佐藤委員**

資料では、外国人の訪問先について百貨店は出ていませんが、実際に訪問は多いのでは。

**事務局：岡本局長**

百貨店でも外国人が多いのは、心斎橋の大丸や難波の高島屋に訪問されています。

やはりミナミの方が多いです。

**佐藤委員**

外国人の若い子はグランフロントなどにも来ている。

**事務局：岡本局長**

個人では来ています。

**佐藤委員**

これから長期的に見た時に、全部バスでツアーに来るのか、バスの使い方、行き先が変わってくることはないのか、今、団体客の駐車場の問題を考えていますが、観光客も団体から個人に変わってくれば、今のような状態がそのまま続くということにならないとは考えられないのでしょうか。

**福島会長**

香港、台湾、韓国からは、リピートの個人客が増えていますが団体客は少ないです。中国は個人客も増えていますが、団体客も増えています。昨年、中国人は１億人が海外旅行に行っておりますが、その内日本に来たのは２５０万人です。それでも我々は増えた増えたと言っておりますが、これからは、団体客もまだまだ倍倍ぐらいで増えるのではないかと思います。

関空に来ましたら、みなさんも知らないような街から飛行機がどんどん飛んできています。

これはみんな中国の団体旅行のお客さんですから当面は減ることはないと思います。

**事務局：岡本局長**

　ここでの役割を見ますと、観光バスとか周遊バスを停めるところを増やすとなると、恐らくバス

事業者は行政が作ってくれとなると思います。確かに、大阪には、ハワイのトロリーとか、香港の市

内を巡回するようなバスを走らせるにも、いわゆる観光バスもそうですが、バスを停めるところがあ

りません。バス会社は降りるところを作ってくれないと企画できませんと言うのでしょうが、でも、

降りるところを作ったからといって、企画してくれるかどうかは分かりません。

大阪城のような観光施設は、少し遠いところとクレームはありますけど、整備はされています。

他の観光施設は、必ずしもバスの駐車場が良いわけではありません。

はとバスみたいな観光ルートの周遊バスを作ろうと思っても、駐停車場が足りないと普通の観光バスも停めれませんが、周遊バスも停められません。梅田をスポットですが、結果的にどこも停められないから通過するだけになってしまい、結局そんな商品は駄目ですとなります。

**佐藤委員**

コストはかかるが、うめキタの第2期開発で地下に観光バスが停められる駐車場を作ればどうでしょうか。

**武内委員**

確かに、東京の八重洲などは地下に作る計画がありますが、やはり地下は工事費が高く、コストがかかるのが問題になるのではと思います。

**福島会長**

大阪城でも、外に二重三重にずらっと駐車されています。さすがに、大阪府警の前には停めておりませんが。

**事務局：岡本局長**

大阪城は、歴史公園にある歴史的建造物なので、簡単に駐車場は作れませんが、極論で言えば、森之宮からニューオータニ、大阪城公園までの道路は空いていますので、側道１車線をバス停にしようかという企画はあるようです。しかし、場合によっては、森之宮辺りにバスを停めますと、ますます大阪城から離れてしまい、お城まで２０分、３０分とかかるようなところに作ったところで、機動的な駐車場とはいえないという問題はあると思います。

元々大阪は、開発の際に東京のように昔から、観光バスや周遊バスの停車場所を用意してこなかったということもあろうかと思いますし、事業者にしましても、付加価値的にバスの駐車場より価値の高いものが他にあったので作っていないということなのだと思います。しかしながら、今、必要になってきているのは事実でありまして、どうして行くかが課題ではあることは確かだと思います。

**司　会**

　それでは、まだまだ委員の皆様方から貴重なご意見を頂戴したいのは山々ではございますが、このあとご予定が入っている委員もいらっしゃいますことから、意見交換はこれをもって終了とさせていただきたいと存じます。また後日、事務局の方からお伺いいたしまして、ご意見等をお聞かせいただきたいと思いますので、その節にはよろしくお願い申し上げます。

　なお、本日ご欠席となっております角倉委員、高橋委員、玉岡委員の３人の委員の皆様方に対しましては、同様に後日、事務局の方から、本日ご説明をさせていただいた内容を含めて、今頂戴いたしました各委員からのご意見もご披露しながら、また、各委員それぞれのご意見も頂戴した上で、次回会議の検討資料として反映して、ご議論いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

　それでは、「第１回大阪府観光客受入環境整備の推進に関する調査検討会議」はこれをもちまして閉会とさせていただきたいと思います。本日は、福島会長をはじめ、各委員の皆様には、たいへんお疲れ様でございました。ありがとうございました。